

稲 穂

豊崎小学校 校長室通信

令和2年 10月20日

第19号 文責 町田晋一

学習発表会を終えて

今年度の学習発表会を終え、子どもたちの様子はどうだったでしょうか？各学年の発表時間を減らし、観覧されるご家族の人数制限もさせていただいた中での開催でした。発表時間や観客数に変化はあったものの、子どもたちのやる気や真剣さは、何も変わらなかったのではないかと自分は感じています。環境が変わっても、「自分たちの演奏や演技を楽しんでほしい。」その



思いは、今年の方がむしろ強かったように思います。暖かいご声援や拍手をたくさんいただき、子どもたちも満足のいく学習発表会とすることができました。

本当にありがとうございました。

子どもたちの5年後、10年後…

今、学校に求められている児童の育成について、よく聞く「自主性」や「主体性」という言葉があります。本校では、その力を子どもたちにつけるため、以下のような取り組みを行っています。

- ・子どもたちの話を最後まで聞く。
- ・自分で決めさせる。
- ・子どもが考えた意見や思いを尊重する。 等



この取組は、昨年度「主体性を高めるために」というテーマのもと、動き出した取組で、今年度で二年目となります。各教室には『「児童に考えをもたせる関わり方」5ヶ条』という掲示物(裏面にあります)を掲示し、先生方が共通して声かけや関わりを工夫し、児童が自分で考える環境を作っています。

なぜ、そのような取組が必要なのでしょうか？文部科学省や県や市の教育委員会も推奨してはいますが、私は、豊崎の子どもたちが「何のために、どうすることがいいのか？」ということ常を常に考え、自分を成長させたいと願う子になってほしいと思っています。そして、「指示されたことができる」ことも大切ですが、自分の思いや願いを実現に向けて努力できるスキルや意思を強くもてることが、これからの子どもたちには必要になってくるのではないかとともに思います。今後も、学年の発達段階に応じて、取組を続けていきます。そして、ご家庭でも話題にいただき、子どもたちの将来の姿を思い描いていただければ幸いです。

「児童に考えをもたせる関わり方」5か条 ～やらせて、認めて、支えて伸ばそう～

① 児童が考える時間の確保

→教師がすぐに教えない

- ・個人で
- ・友達と対話して
- ・全体で対話して

② 教師の声がけ・発問の工夫

→教師がすぐに教えない、ルールを敷きすぎない、
子供に教師の顔色を見させない

- ・どうすればいいのかな？
- ・分かりやすく言うと？
- ・何が大切なんだっけ？
- ・〇〇さんはどう思う？
- ・自分はどうしたい？
- ・どうすればいいと思う？
- ・分からないことがある人は黙って手を挙げてみてください
- ・なんて言うか、頭の中で話す練習してみて
- ・どういう意味だと思う？
- ・自分なりの解決方法でいいですよ…等

③ 「教室はまちがってもいいところ」を 実感させるために

→まちがえない努力は大切

- ・掲示物「まちがえるくん」の使用
- ・まちがえた時の教師の声がけの工夫

④ 「一人一人がしっかり考えをもつ」ために

- ・挙手は静かに
- ・「ぼくは…」「わたしは…」で答えさせる
- ・教師も児童も、発言者の話を共感的に最後まで聞く
- ・「わからない」を言える風土作り

⑤ 自分たちで考えたことが実現できる場の設定

→達成感を実感させる場の工夫(授業時間以外でも)

- ・朝の会や帰りの会
- ・集会活動等